

帯広刑務所



帯広刑務所の概要

所在地：北海道帯広市
 収容定員：502名
 収容対象：男子受刑者
 （主に刑期が10年未満で、犯罪傾向の進んでいる者）
 規模：敷地面積 217,680㎡
 うち別府農場 68,760㎡

地域と連携した取組

【帯広にしかない「ばんえい十勝」とコラボ】

世界で唯一、帯広でしか行われていない「ばんえい競馬」。トラクターがない時代に活躍した農耕馬を競走させたことが始まりで、北海道開拓の歴史を現在に残す貴重な地域文化となっています。

帯広刑務所では、特定非営利活動法人「とち馬文化を支える会」を通じて「ばんえい十勝」に登録している競走馬が使用した蹄鉄を磨き直して飾りにしたオフィシャルグッズやマグネット、サンドブラスト加工のグラス等を製作するなど、**地域文化の継承**の一助を担っています。



ガラスのマグネット



ばんえい競走馬の蹄鉄の飾り



サンドブラスト加工のばんえいグラス

沿革

明治26年	3月	北海道集治監釧路分監帯広外役所として開設
明治28年	4月	北海道集治監十勝分監として開庁
明治36年	4月	集治監制廃止により十勝監獄と改称
昭和14年	11月	帯広少年刑務所として独立
昭和18年	8月	官制改正により帯広刑務所と改称
昭和51年	10月	新施設完成し現在地へ移転
昭和56年	6月	別府農場開設
平成19年	4月	釧路刑務所が帯広刑務所の所管となる



十勝監獄正面

施設の特徴

【カラマツ材を利用した家具作り】

帯広刑務所がある十勝地方は「カラマツ王国」と言われるほどカラマツが多く、その有効利用に力を入れている地域であり、当所においても、道産のカラマツ材を利用した各種家具作りに取り組んでいます。



カラマツ材を利用した刑務所作業製品

【農作物の栽培】

本所及び別府農場では、白菜、キャベツ、たまねぎ、とうもろこしなどの農作物を栽培しているほか、本年度は、コロナウイルス感染症防止のため、これらの野菜をドライブスルー方式によって販売しました。



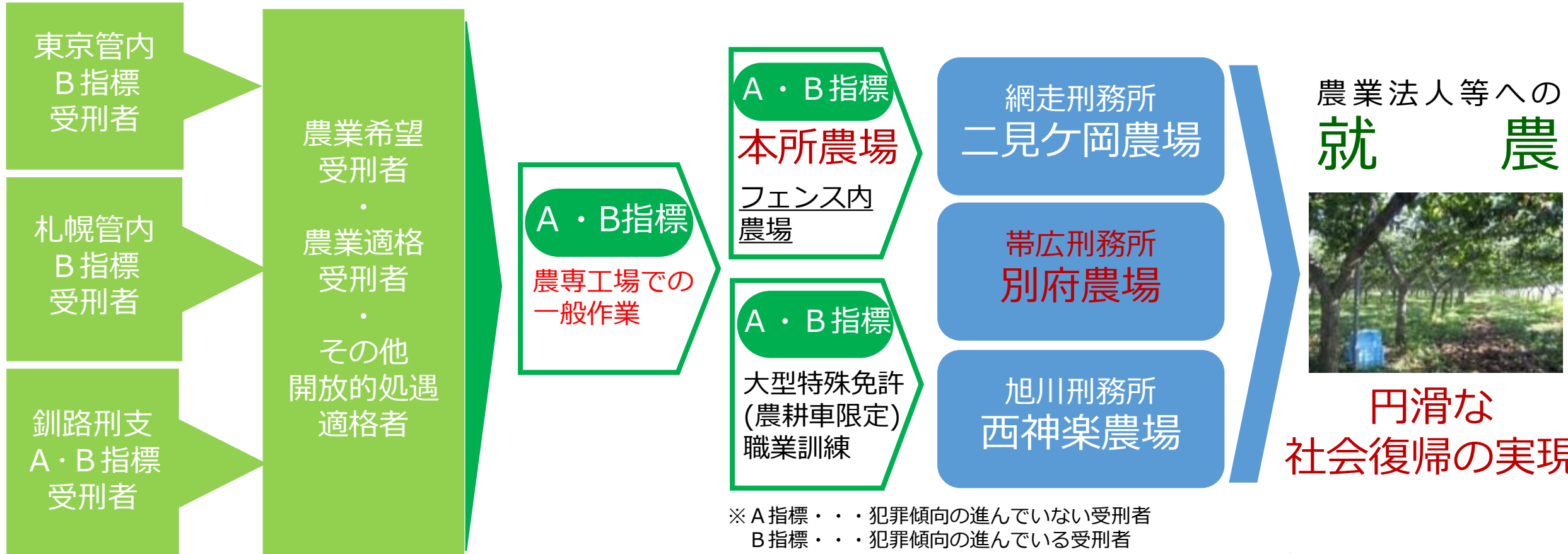
別府農場で収穫した野菜

最近のトピック

【道東所在刑事施設による農業を活用した段階的開放処遇モデル】

昨年度から当所の農場を活用して、受刑者を段階的に開放的な処遇に移行させた上、別府農場、西神楽農場及び二見ヶ岡農場で就業する受刑者を当所で育成する取組を行っています。

また、職業訓練として、農業コースを新設し大型特殊自動車運転免許等を取得させています。



※ A指標・・・犯罪傾向の進んでいない受刑者
 B指標・・・犯罪傾向の進んでいる受刑者
 受刑者の属性や犯罪傾向等によって、収容される刑事施設が定まる。